

西多摩医師会報

創刊 昭和47年7月

第460号 平成23年4月



『主役はどちら』 森本 晋

目 次

	頁		頁
1) 東日本大震災に寄せて	横田卓史 … 2	7) 連載企画	
2) 専門医に学ぶ	肥留川賢一 … 3	計画停電	近藤之暢 … 11
3) 感染症だより	西多摩保健所 … 7	8) 広報部よりのお知らせ	広報部 … 12
4) 学術部インフォメーション	学術部 … 8	9) 理事会報告	広報部 … 13
5) 広報だより		10) 会員通知・医師会の動き	事務局 … 18
震災から考えること	土田大介 … 9	11) お知らせ	事務局 … 19
6) 平成22年度西多摩地域糖尿病 医療連携検討会からの提言	野本正嗣 … 10	12) 表紙のことば	森本 晋 … 20
		13) あとがき	馬場真澄 … 20

東日本大震災に寄せて（ご協力依頼）

西多摩医師会 会長 横田卓史

今回の大震災で亡くなられた方々のご冥福をお祈り致しますとともに、被災者の皆様にご心よりお見舞いを申し上げます。この度の地震は、我々の記憶に新しい阪神淡路大震災をはるかに凌ぐ、千年に一度の規模の大震災となりました。多くの国民がテレビ画面に写し出された津波の想像を絶する破壊力に、言葉を失うほどの衝撃を受けました。一瞬にして最愛の家族や友人、住み慣れた我が家や職場を失った被災者の皆様の無念さや悲しみは、察するに余りあるものがあります。福島原発の被害も甚大で近隣に深刻な放射線被曝の懸念があり、30キロ圏内の避難勧告も出されようとしています。この未曾有の困難に際しては国民の一人一人が今何が出来るのかを自問し、一日も早い被災地の復興を祈念しつつ自分の出来る協力を継続して行くしか無いように思われます。幸い我々医師という職業は、災害時に協力できる技能と幾ばくかの経済的余裕もあると思います。会員の先生方におかれましてはどうぞ被災者の皆さんの直面する困難と苦悩をご理解頂き、暖かい御支援を継続して賜りますようお願い申し上げます。

専門医に学ぶ 第75回

問題と解説 青梅市立総合病院 救急科 肥留川 賢一

20△□年○月×日午前8時青梅線の脱線事故が発生しました。多数の死傷者が発生しているようです。たまたまその場に出くわした先生は現場活動中の消防職員から現場トリアージの依頼をされました。様々な状態の患者さんを先生はトリアージしなければなりません。

(問題)

黒・赤・黄・緑のブースへのトリアージをお願いします。

- 1) 40歳代男性。右大腿の変形があり歩けない。呼吸数26、脈拍84、CRT1秒、従命には従える。
- 2) 20歳代女性。痛い、痛いと言いつつおなかを押さえて動き回っている。顔面蒼白。呼吸数20、脈拍106、CRT2.5秒、従命にはなんとか応じられる。
- 3) 50歳代男性。右腕に広範な挫滅創があり激痛を訴えているが歩ける。呼吸数25、脈拍72、CRT1秒、従命には従える。
- 4) 60歳代女性。意識なし、呼吸なし、下顎挙上するも呼吸なし、脈拍触知せず。
- 5) 20歳代女性。苦しい苦しいといながら歩き回っている。呼吸数36、脈拍84、CRT1秒、従命にはなんとか従える。
- 6) 中学生男子。意識がなく動けない。呼吸数5回、脈拍触知せず CRT6秒、従命反応なし。
- 7) 40歳代女性。胸痛と呼吸困難を訴え歩けない。声もほとんど出せない。呼吸数32、脈拍128、CRT3秒、従命にはなんとか従える。
- 8) 20歳代男性。頭部からおびただしい出血を認めるが歩いて助けを求めている。呼吸数35、脈拍96、CRT1.5秒、従命には従える。
- 9) 50歳代女性。足首を痛がり歩けない。呼吸数15、脈拍64、CRT1秒、従命には従える。
- 10) 高校生女子。意識がなく動かない。呼吸数14、脈拍64、CRT1秒、従命反応なし。
- 11) 60歳代男性。おなかを痛がり、大きな声で助けを呼んでいる。手足をばたばたさせてはいるが歩けない。呼吸数18回、脈拍86、CRT1.5秒、従命には従えるが、早く助けろと叫んでいる。
- 12) 70歳代女性。腰の痛みが強く歩けない。呼吸数26回、脈拍68、CRT1秒、従命には従える。
- 13) 50歳代男性。お尻の激痛のため全く動けない。顔面蒼白、冷汗著明。呼吸回数25回、脈拍120、CRT3秒、従命には従える。
- 14) 20歳代女性。おなかを痛がりうずくまったままで動けない。呼吸数30回、脈拍132、CRT3秒、従命には従える。
- 15) 10歳代男性。右足首の変形を認めるが片足ではねながら移動している。呼吸数20、脈拍72、CRT1秒、従命には従える。
- 16) 20歳代女性。頭から血を流しているがフラフラと歩いている。呼吸数20、脈拍70、CRT1秒、従命には従えるがその反応は鈍い。
- 17) 50歳代男性。外傷は認めないが前胸部と左肩に激痛、頸部に違和感があり動けない。嘔気も認める。顔面に著明な冷汗を認める。呼吸数28、脈拍44、CRT3秒、従命反応あり。
- 18) 小学生女子。「痛い痛い」と泣き叫びながら走りまわっている。呼吸数25回、脈拍100、CRT1秒、言うことを全く聞かずうろろしている。
- 19) 40歳代男性。頭部に大きな打撲痕があり意識がなく全く動かない。呼吸なし、脈拍触知せず。気道確保しても呼吸回復なし。
- 20) 20歳代女性。意識がなく動かない。除脳硬直肢位をとっている。呼吸数6、脈拍60、CRT3秒、従命反応なし。
- 21) 50歳代男性。頭痛を訴えているが歩ける。呼吸数15、脈拍96、CRT1秒、従命には従える。
- 22) 大学生女性。左膝から末梢が不全断裂の状態になっており歩けない。断面からおびただしい出血を認める。呼吸数32回、脈拍122、CRT3秒、従命には従える。

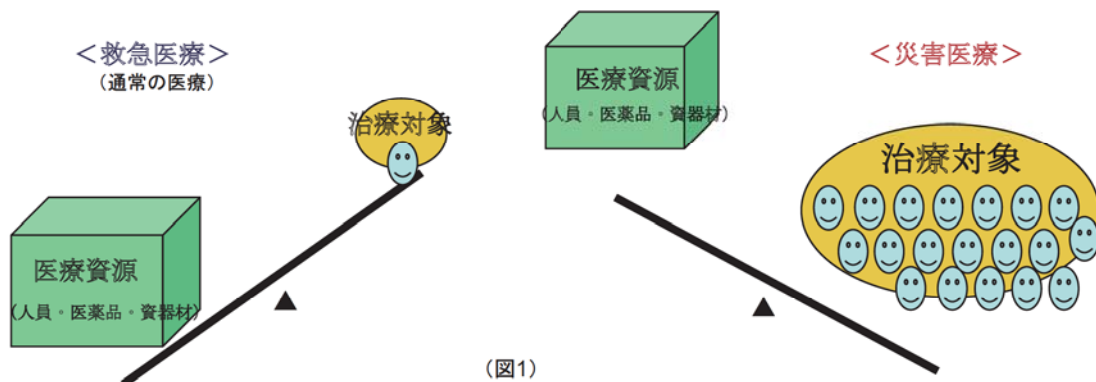


解説: <災害医療・トリアージについて>

多数の傷病者が一度に発生する特殊な状況下において、現存する限られた医療資源の中で、まず助かる可能性のある傷病者を救命し社会復帰へと結びつけることにトリアージの意義があります。トリアージとは、最大多数に最善を尽くす目的で行われるため、個々の患者にとっては必ずしも最良の医療が提供されない場合もあります。図1に示すように平時の救急医療では治療対象に比べ医療資源が満たされている状態であり各個人に対し十分な医療が行えます。しかし災害時の医療では医療資源に比べ治療対象となる傷病者が極めて多い状況にあるため十分な治療が行えない事になります。このため多数の傷病者に対して治療の優先順位をつけるトリアージが必要となります。

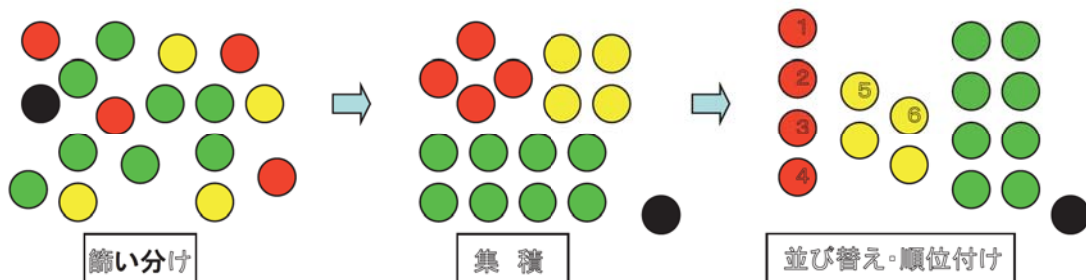


救助可能な傷病者を確実に救い、可能な限り多数の傷病者の治療を行うためには、傷病者の緊急性や重症度に応じて、治療の優先順位を決定し、この優先順位に従って患者搬送、病院選定、治療の実施を行うことが大切になります。トリアージの判断基準は状況により変化するため一度行えば終了というものではなく、繰り返し行う必要があります。つまり、災害現場(救護所までの優先順位)、応急救護所(応急処置の順位決定)、搬送・選別(搬送・搬出の順位決定)、病院入口・救急外来(病院における初期治療の順位決定、手術の順位決定)など何回もトリアージを行うことになります。トリアージとは動的過程であり、“実施した時点での優先順位”であることを認識しなければなりません。その後には状態の変化や現場での治療で優先順位が変化することも十分考えられます。トリアージは二段階で行われます。一次トリアージは傷病者の状態を最初に迅速に評価するために行われ、主に傷病者発見場所で行われます。二次トリアージは投入可能な医療資源がある場所で行われ、生理学的・解剖学的な評価に基づいて行われ、主に現場救護所で行います。



(図1)

<トリアージの基本的イメージ>



(図2)

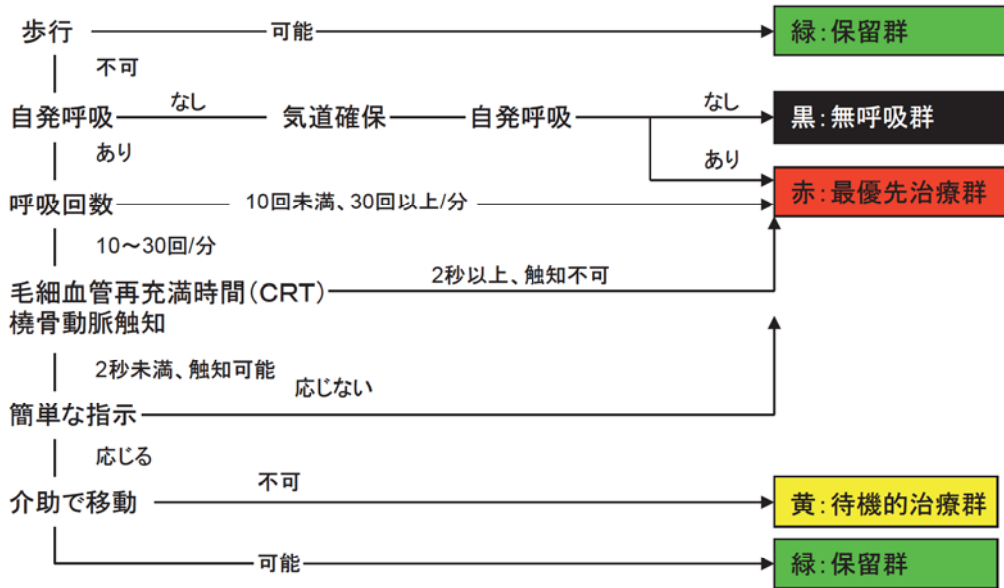
トリアージの基本的イメージを図2に示します。数多くの傷病者を一次トリアージで各カテゴリーに篩い分け、集積した後に二次トリアージで治療や搬送の優先順位を決定します。この一次トリアージでは多数の傷病者を迅速に大別しなければならず主に災害現場で行われるSTART法を使用しトリアージを行います。

<START法トリアージ>

Simple Triage And Rapid Treatment 

この方法によるトリアージは呼吸・循環・意識の3つのパラメーターで分類する方法であり1人あたり30秒以内で完了できるように考えられています。正確な診断をつけるために行うものではなく、迅速に大別することが目的であることを忘れてはいけません。

- ①まず歩行可能であるか不可能であるかを判断します。歩行可能な傷病者は訴えの如何によらず緑のゾーンに誘導します。
- ②歩行不能な傷病者に対し、ABCDの順に(①:呼吸の有無;Airway、②:呼吸回数;Breathing、③:循環:Circulation、④:意識状態;Dysfunction of CNS)トリアージを行います。



<解答>

緑: 2、3、5、8、15、16、18、21

黄: 1、9、11、12

赤: 6、7、10、13、14、17、20、22

黒: 4、19

START法トリアージでは歩行可能であれば呼吸数やCRTを調べることはなく、緑(待機群)のブースに移動します。2)ではCRT2.5秒、5)では呼吸数36、8)では呼吸数35と状態の悪化を予測させる所見がありますが実際のトリアージではそれを確認することはありません。移動後の緑のブースで状態が悪化したとしてもその場所で再度トリアージが行われますので心配は要りません。START法トリアージは正確な診断をするのではなく迅速に大別することが目的であることを忘れてください。6)では呼吸数5、7)では呼吸数32(CRT3秒、脈拍128)、10)では従命反応なし、13)ではCRT3秒、脈拍120、14)では呼吸数30(CRT3秒、脈拍132)、17)ではCRT3秒、20)では呼吸数6、22)では呼吸数32(CRT3秒、脈拍122)が異常であり赤(最優先治療群)のブースに搬送します。訴えや所見から病態を推測することは出来ませんが、診断をつける必要はありません。また通常であれば直ちに心肺蘇生術を施す4)や19)は黒タッグを装着し治療を行うことはありません。

追加

この原稿を作成中に東北太平洋沖大地震が起こりました。東京都からの要請で私を含む当院職員3名が災害現場に行き、微力ながら現場での災害医療を行って来ました。まのあたりにした光景は本当に信じられないものでした。



感染症だより

〈全数報告〉

第7週(2/14-20)から第10週(3/7-13)の間に、管内医療機関より以下の報告がありました。
(二類感染症) 8件(肺結核5件 肺外結核2件 無症状病原体保有者1件)

〈管内の定点からの報告〉

	7週	8週	9週	10週
	2.14～2.20	2.21～2.27	2.28～3.6	3.7～3.13
RSウイルス感染症		1		
インフルエンザ	194	124	67	82
咽頭結膜熱	2	1		2
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	4	10	10	7
感染性胃腸炎	67	73	51	65
水痘	13	12	11	10
手足口病			1	1
伝染性紅斑	1	2	3	1
突発性発しん	3		3	4
百日咳	1		1	1
ヘルパンギーナ				
流行性耳下腺炎	3			
不明発疹症				
MCLS				
急性出血性結膜炎				
流行性角結膜炎				
合計	288	223	147	173

基幹定点報告対象疾病(細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、マイコプラズマ肺炎、クラミジア肺炎(オウム病を除く))
報告はありませんでした。

〈コメント〉

① インフルエンザの流行警報が発令中です。

10週時点までの定点当たりの報告数から見ると、流行のピークは第4週(1.24～1.30)だったと思われませんが、都内は流行警報が発令中ですので引き続き注意が必要です。10週時点での報告数は、管内は定点当たり5.86人、都内は16.26人、全国は16.81人です。

② 感染性胃腸炎は引き続き注意が必要です。

10週時点までの定点当たりの報告数から見ると、流行のピークは昨年(12.13～12.19)だったと思われませんが、週ごとに増減を繰り返しながら漸減状態です。10週時点での定点当たり報告数は、管内は8.13人、都内は10.10人、全国は10.29人です。都内では過去5年間の同時期と比較して多い状況です。

2011年2週から2011年9週までに感染性胃腸炎の臨床診断名で搬入された27検体のうち、検出されたウイルス等は次のとおりです。ノロウイルス8件、アデノウイルス3件、ロタウイルス1件、エンテロウイルス1件。

③ 水痘の発生が続いています。

10週時点までの定点当たりの報告数から見ると、流行のピークは昨年(12.13～12.19)だったと思われませんが、週ごとに増減を繰り返しながら横ばい状態です。10週時点での定点当たり報告数は、管内は1.25人、都内は1.20人、全国は1.78人です。

④ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の発生が続いています。

10週時点までの定点当たりの報告数から見ると、昨年後半よりは高いレベルで推移していますが、昨年の同時期と比べると低い状況です。都内では感染症法施行(1999年)以来、同時期としては最も高いレベルになっています。10週時点での定点当たり報告数は、管内は0.88人、都内は2.78人、全国は2.61人です。

⑤ 伝染性紅斑の発生が続いています。

10週時点までの定点当たりの報告数から見ると、流行のピークは第2週(1.10～1.16)だったと思われ。現在は、昨年後半の時期と同程度で横ばい状態です。10週時点での定点当たり報告数は、管内は0.13人、都内は0.52人、全国は0.69人です。



学術部 Information



3月11日、人類の想像を絶するような甚大な被害をもたらした東北関東大震災が発生しました。まさか、これ程までの大地震とそれによる大津波や原子力発電所の事故が我々に襲いかかって来ることを誰が予測できたでしょうか？この度の震災による犠牲者の方並びにご家族の方には心よりお悔やみ申し上げます。また被災され怪我をされた方々や現在も避難生活を余儀なくされている方々にも心よりお見舞い申し上げます。

現在も原発事故、電力不足による計画停電、燃料不足、交通機関の運休など、震災による様々な混乱が続いているため、西多摩医師会学術部では、様々な事情を考慮し、震災以後の3月中に予定しておりました医師会主催の西多摩臨床報告会（3月15日）および西多摩パネルディスカッション（3月25日）を中止とさせて頂きました。

西多摩医師会臨床報告会につきましては、日常の診療でお忙しい中、各演者の先生方にはご発表の準備をして頂いておりましたので、5月の連休明け以降に諸事情を考慮しながら開催の時期を再検討させて頂きたいと考えておりますので、ご理解ご協力の程、宜しくお願い申し上げます。

西多摩パネルディスカッション（2011）につきましても、「めまいの外来診療」というテーマで3人のパネリストの先生方にお忙しい中、症例提示を初めとするご発表の準備をして頂いておりました。また本会の開催にあたり多くの会員の先生方にも、症例に対するアンケート調査にご協力頂き、その結果を集計させて頂いておりました。パネルディスカッションの開催時期につきましては、パネリストの先生方とご相談の上で検討させて頂き、再度ご案内させて頂きますので、宜しくお願い申し上げます。

震災以前に行われた西多摩医師会学術講演会について、ご報告いたします。3月4日（金）に羽村市生涯学習センターゆとろぎにて『脳卒中治療ガイドライン2009による脳卒中予防戦略—JELISの結果が導き出す意義』というテーマで富山大学神経内科教授、田中耕太郎先生が講演されました。講演では脳卒中予防におけるEPA製剤の有用性について詳細にお話し頂きました。田中先生のご講演の要旨は以下の通りです。

（学術部担当 江本 浩）

「脳卒中治療ガイドライン2009による脳卒中予防戦略—

JELISの結果が導き出す意義」

富山大学附属病院 神経内科 教授 田中 耕太郎

1960年代にわが国の死因の第1位であった脳血管疾患は、1965年をピークに減少しています。しかし、最近5年間での脳卒中の死亡者数をみると毎年約13万人と下げ止まりを示しています。また、後遺症による入院・外来を含めた受療率も高い水準にあり、医療コストや介護の観点からも、脳卒中の発症予防は依然として重要な課題となっています。近年は、高血圧治療の進歩により脳出血が減少し、脳卒中全体の減少に大きく寄与しましたが、一方、脳梗塞は増加傾向にあり、現在は脳卒中の2/3を脳梗塞が占めるようになっています。そのなかでも、都市部でアテローム血栓性梗塞が多くなっているという質的变化があり、この背景として脂質摂取量の増加とEPA摂取量の低下が目されています。

魚食によって虚血性心疾患や脳卒中のリスクが低減することから、以前から魚油に含まれる EPA の働きが示唆されてきました。JELIS でも EPA の投与が脳血管イベントに対して有用であったことが報告されています。JELIS は、TC 250mg/dL 以上の高脂血症患者を対象に、スタチン単独投与群（対照群）と EPA を追加投与した群（EPA 群）における冠動脈イベント発症について 5 年間にわたって観察した登録症例数 18,645 例の国内大規模臨床試験です。主要評価項目の冠動脈イベント累積発症率は、対照群に比べて EPA 群で 19% の有意な低下を認めました。この結果を受け、二次評価項目の脳血管イベントに対する成績がまとめられました。脳血管イベント発症に及ぼす背景因子について検討した結果、脳卒中の既往がある場合に、脳卒中再発リスクが 2.17 倍と最も高かったことから、われわれは特に脳卒中既往例を対象に解析を行いました。脳卒中既往例における EPA の影響の解析では、脳血管イベント再発の累積発症率でみると 3 年目ごろから対象群との群間差が生じ、5 年後では EPA 群で 20% のリスク低減が認められ NNT (number needed to treat, 治療必要数) も 27 と極めて良好な値が得られました。さらに、EPA が高濃度の症例でイベント発症リスクが有意に低下しており、脳卒中発症予防に血漿 EPA 濃度が深く関与していることも示唆されました。

EPA は、脳卒中治療ガイドライン 2009 においても、脂質異常症合併の脳梗塞慢性期の患者さんに対して、スタチンとの併用が再発予防として推奨されています（グレード B）。また、消化性潰瘍などで抗血小板薬の服用が困難な場合でも、安全性の高い EPA は、脳梗塞再発予防薬として使いやすいのではないかと思います。

広報だより



震災から考えること

青梅市 土田医院 土田 大介

東日本大震災（東北地方太平洋沖地震）は日本列島に多くの爪痕を残しました。西多摩での直接的な被害は多くなかったと思われませんが、計画停電や一部の食料品・ガソリンの不足、交通機関の乱れなど他の地域と同様の混乱は生じています。ただ、被災地のことを考えるといま自分に何が出来るのか、また今後何をすべきなのか考えざるを得ません。

まずは電力について。自宅と同様診療所でも節電のため日中は照明を落とし暖房機器の使用を減らすなどの対応はしています。震災翌日にはエアコンだけでは寒いと言う患者さんがおりましたが最近はそのような方もいなくなりました。一方で現代の診療では電子カルテやレセコンなどいかに電力（コンピューター）に依存しているのか改めて思い知らさ

れました。レセコンのメーカーからは停電開始するまでに無停電電源装置を含む全てのコンピューター機器の電源を落とすように指示があり、停電予定前にはまさに 1 分を争う事態になります。また、夜中の停電ともなれば仕事どころではありません。青梅市の健康センターには自家発電機があるので停電の際にもセンター内の青梅休日診療所では通常通り診療されますが（コンピューターや薬の分包機等が使えないようです）、個人の診療所でも自家発電機を備えておくべきでしょうか？ ちなみに自宅では太陽光発電を行っています。停電時には止まりました（その後調べてみて太陽光発電には自立運転により 1500W までの電力を用いることが出来ることは分かりました）。CO₂削減のためにもクリーンエネ

ルギーである原子力発電は日本にとって重要な電力源ですが、スリーマイル島の原発事故以来アメリカでは原発が作られていないことから、今後は脱原発の動きが高まることは容易に想像されます。日本の国土を生かした地熱発電も発電所の候補地が国立公園内や温泉地などにあることから建設が進まないようです。電力の供給に関しては国に任せるしかありませんが、節電に関しては今の時期だけでなく今後も心がけなくてははいけないでしょう。長期の計画停電に対応した診療体制の変更も必要です。

被曝の影響も今後の課題です。これを書いている時点で福島第1原子力発電所はコントロールの兆しが見えてきましたが、放射性

物質による汚染の情報は連日マスコミをにぎわせています。良くも悪くもさまざまな情報が簡単に手に入り、多くの人に伝わる時代です。正確な情報の入手と的確な判断が医療従事者にも求められます。今のところヨウ化カリウムを処方して欲しいと来られる方はいませんが、不安で眠れないと訴えて来院される方はいます。そのような方の心のケアも精神科医のみならず一般の開業医でも対応していかなくてははいけません。未曾有の災害だけに今後もいろいろ想定外の事態に直面することでしょう。全てにおいて正しい判断が出来る訳ではないでしょうが、より良い対応が出来るよう備えは十分にしたいものです。

平成22年度西多摩地域糖尿病医療連携検討会からの提言(2011年3月)

平成22年11月～12月にかけて実施いたしました「糖尿病患者さんへのアンケート」調査に際し、ご協力頂きありがとうございました。当検討会はこのアンケート結果を踏まえ、以下の提言をいたします。

糖尿病患者さんのQOL向上と合併症予防のために

(1) 基本的事項の徹底

- 糖尿病手帳、糖尿病眼手帳の交付 ○家庭での体重測定勧奨
- 低血糖についての説明 ○HbA1cについての説明
- 血圧、LDL コレステロールの管理目標値の説明

(2) くり返し行なう必要がある事項

- 栄養指導 ○運動指導
- 足の観察 ○服薬アドヒアランス

(3) 合併症予防のために

- 眼科受診勧奨 ○歯科受診勧奨
- 定期的な尿検査、心電図検査

(4) 継続的な知識向上のために

- 医師会と行政の協力による勉強会、セミナー、公開講座などの開催

西多摩地域糖尿病医療連携検討会

野本正嗣、鹿児島武志、関口芳弘、松山 健、西成田 進、高村 宏、
柳田和弘、清水茂雄、木本成昭、葉山 隆 (以上 西多摩医師会)
岩永克美 (西多摩歯科医師会) 田中三広 (西多摩薬剤師会)
土屋倫子 (管理栄養士) 金嶽義男 (患者会代表)
高橋秀夫 (青梅市健康課長) 清水 稔 (檜原村福祉健康課長)
友松栄二 (西多摩保健所長)



計画停電

あきる野市 近藤医院 近藤之暢

東北地方太平洋沖地震（3月24日時点で気象庁での正式な呼称のようです）による東日本大震災は予想以上の規模で被害をもたらしています。人の命や健康は勿論、家屋や港鉄道・道路等の建造物、自然や田畑、極めつきは被害程度の日処さえつかない原子力発電所の損壊等々。不謹慎といわれるかもしれませんが、幸い当地では大きな被害もなく日常生活が送れています。

また地震直後すでに要請に答える形で当地からも医師が派遣されています。我々実地医家でも何らかの支援を行いたいと考えている諸先生もおられることでしょう。実際には日常の診療や患者様を投げ出して被災地へ向かうことは今まで通り来院して下さる患者様に混乱や不安、治療の中止、ひいては健康被害をもたらしてしまうことは明らかです。少しでも被災地の役に立ちたいと思うのであれば、震災被害を免れた地域は、被災者たちに負担をかけないように過ごすことではないでしょうか？計画停電や、無駄な燃料の浪費、備蓄を極力避け、少しでも復興の役に立てればと思っています（被災地から遠隔地であるのに微力ながら毎日災害援助協力ができているという意識を持てます）。

当地でも計画停電が実施され診療時間や検査などに影響が出ている先生方も多いことでしょう。地域の中心となる総合病院等は自家発電機能を備え、燃料の備蓄も行って費用も大がかりな災害対策を行っているようですが、多くの診療所にあつては自家発電や予備電源などを備えていても丸1日以上十分な電力をまかなえる機関はほとんど無いと思います。

当院の患者様も計画停電のために診療日や時間をずらしての受診をお願いしています。当院での主な診療内容は、診察・採血・心電

図・レントゲン検査・消化管内視鏡検査などがありますが、大量の電気を消費する検査は停電中は中止、延期しています。

またレセプトコンピューターや電子カルテを利用している医療機関にあつては診療自体が全くできない状態の機関もあるでしょう。幸か不幸か当院はまだ電子カルテを導入しておらず、カルテを利用した内科診療は可能となっています。しかしながら夕方の診療は（17時～19時）暗くなってしまい休診あるいは時間を16時～18時に変更しています。

当院での工夫等少しでもヒントになればと思い列記してみます。

処方基本的には錠剤などのシート状のものを処方（院外処方ですが薬局での分包器使用ができない）しています。小児などの粉・散剤は仕方がないので停電終了後に分包してもらるか手包みしてもらうように手はずを整えました。暖房は昔（アラジン）のストーブ、ファンヒーターは電気が必要なので使用不可能です。照明はキャンプ用の物。意外に便利なのはホームセンターなどで販売している押入れ用のLEDを利用した照明です。電池は再充電のできる物を利用。どうしても電気を使用しなくてはいけないのはレセプトコンピューター（モニターとあわせ180W、レーザープリンター自体は700W程度の電力を必要とします）です。無停電電源はせいぜい20分くらいしか持たず、仕方がないので手書きの領収書を発行することにしています。いざとなれば自動車用のバッテリーとインバーターを利用するつもりですが、まだ無理に使用するような事態にはなっていません。

今となつては2KW位の発電機があれば内視鏡検査も可能で良かったとは思いますが、どちらにしても今回は燃料が手に入らず役には立たなかったと思います（知人の家で発電

機を利用していたところその燃料を分けてくれと見知らぬ人が訪ねてきたそうです。また燃料なしで利用可能な大容量の太陽光発電とバッテリーがあれば通常の電力としても利用でき良いのかもしれませんが（大きな設備投資が必要となります）。

今回の災害を機会に多くの自然エネルギーを利用した自家発電所が多数誕生していくように思われます。

結局のところ当院では患者様の協力で診療

時間の変更、順番の変更（電気を必要とする検査を受ける患者様を先に診療する）等を行ってなるべくアナログ的に対処しています。

被災地でも多くの人たちの小さなアナログ的な活動の積み重ねで毎日の搜索や生活が成り立っていると思います。

まだまだ多くの行方不明者や被災者がおり哀悼の意を表します。

時間はかかると思いますがこれからの復興をみんなの力で成し遂げられれば幸いです。

広報部よりのお知らせ

〈東京都医師会雑誌 平成23年銷夏随想集原稿募集のお知らせ〉

下記の応募規定の通り原稿を募集いたします。

ご提出については西多摩医師会事務局までお願いいたします

応募規定

◇随想、随筆、紀行文について

- ・文字数は、原則として1,500字以内でお願いします。
- ・内容については、政治や宗教を離れたものにしてください。
- ・漢字、仮名ともに現代用語を使用し、差別的表現は一切使用しないようご配慮下さい。
- ・原稿に付随する写真は1枚までとします。（印刷はモノトーンとなります）

◇俳句、短歌、川柳について

- ・お1人、いずれか5首、5句以内でお願いします。

◇絵画、書、写真等について

- ・お1人、いずれか1点として下さい。
- ・キャビネ判以下のサイズの写真にてご提出ください。
- ・掲載サイズは原則、都医雑誌半頁分（10×15cm）以内となります。

◇応募資格

東京都医師会会員であること。

◇申込方法

西多摩医師会を通じてお申し込み下さい。

（西多摩医師会事務局までお申し込みご提出下さい）

締め切り日は平成23年4月28日（木）です。

◇東京都医師会ホームページについて

今後、東京都医師会雑誌に掲載した内容を本会ホームページに掲載する予定であります。

別紙「東京都医師会ホームページ掲載についての承諾書」

（用紙については西多摩医師会事務局までお問い合わせ下さい）

をご記入の上、原稿等と併せてご提出下さい。

◇その他

- ・原稿の採用、不採用及び記述の訂正は本会編集委員会が行います。
- ・投稿原稿、写真等のご返却いたしかねますのでご了承下さい。

理事会報告

★ Information

2月定例理事会

平成23年2月22日(火)

西多摩医師会館

〔出席者：横田・田坂・鹿児島・野本・川間・蓼沼・江本・川口・近藤・池谷・岩尾・足立・松原〕

【1】報告事項**1. 都医地区医師会長連絡協議会報告**

都医からの伝達事項

- ①第28回日本医学学会総会参加登録のご案内並びに「学術講演案内」の送付について
- ②資料「危機にさらされる日本の医療」の送付について
- ③全国健康関係主管課長会議資料（がん対策）について
市町村が実施する大腸がん健診に対し費用の一部を助成する
- ④在宅難病患者訪問診療事業について
小児の対象者についても要望があるが専門医が少ない
平成22年度第3期事業実施は4件（第3四半期までに11件実施）
- ⑤かかりつけ医認知症対応力向上フォローアップ研修の追加募集について
- ⑥認知症疾患医療センターの設置について
東京都認知症対策推進会議の元に平成22年8月
「東京都における認知症疾患医療センターのあり方検討部会」設置し
役割・機能、具体的に取り組むべき事業について検討を行っている。
（構想はあり検討を行っているが現実的には有効に機能するのかは疑問あり）

2. 地区医師会からの報告

1. 中央ブロック（当番：浅草医師会）

- ①平成23年度文京区・子どもの任意予防接種制度の拡充の件について
（小石川医師会）

2. 城東ブロック（当番：葛飾区医師会）

3. 城西ブロック（当番：杉並医師会）

4. 城南ブロック（当番：荏原医師会）

5. 城北ブロック（当番：板橋区医師会）

6. 多摩ブロック（当番：多摩市医師会）

横田会長より日の出町のがん診療無料化の話をした

7. 大学ブロック（当番：東京医科大学医師会）

3. 出席者による意見交換**4. その他****5. 各部報告**総務部 2/17 「電子レセプト請求時代に対応した請求の仕方」セミナー報告
（青梅市健康センター）50名（41医療機関）

- 2/21 総務会・経理部開催報告
平成 22 年度補正予算検討
平成 23 年度事業計画収支予算書
新定款について検討 その他
- 2/24 臨時総会（会員総数 530 名（A 201 名、B 329 名、過半数 266 名））
出席者状況（議場出席者 34 名、委任状出席者 284 名 計 318 名）
- 2/24 研修会の開催について
（西多摩保健所、西多摩健康危機管理対策協議会）
- 3/16 「新型インフルエンザ対応の事業継続計画（BCP）策定研修会」
19:30～21:30 公立福生病院多目的ホール
- 学校医 第 28 回日本医学会総会事前参加登録補助について —— 承認 ——
都医補助金 80 人分×4,000 円＝320,000 円から 86,000 円支出する
（団体登録 24 人×4,000 円－団体割引 25,000 円×2）＋（個人登録 10 人×4,000 円）
- 病院部 2/18 第 9 回市民フォーラム
「小児・若年者の心のケア」「成人・高齢者の心のケア」（羽村ゆとろぎ）
180 名以上参加盛況にて終了
- 100 周年記念誌編集委員会
過去 20 年間の記事を集め、座談会数回開催、会員紹介コーナーなど
これまでの経過報告

6. 地区会よりの報告（各地区理事）

- 青梅市 2/15 臨時総会にて定款承認
- 福生市 3/2 ワクチンの勉強会予定（福生病院にて）
高齢者肺炎球菌ワクチンも実施予定
- 羽村市
- あきる野市 2/14 臨時総会にて定款承認（地区医師会法人化定款案内内容等承認）
例会
- 瑞穂町 1/25 町保健センター打合せ、特定健診打合せ
Hib、肺炎球菌、子宮頸癌ワクチンについて打合せ

日の出町

7. その他報告

- 都医健康スポーツ医学委員会報告（會澤委員）
 - 1) 小児、高齢者に対する健康スポーツ医の役割
 - 2) その他
- 会員（西東京病院 中林院長）より公益法人移行申請遅れているとの朝日新聞記事が
情報提供された
- 2/17 地域産業保健センター事業の運営に関する連絡会報告
 - 1) 健診後の対応について
 - 2) 長時間労働者に対する面接指導について
 - 3) 産保事業運営協議会の設置及び運営について

【2】報告承認事項

1. 入会会員について ―― 承認 ――
2. 平成 23 年度奥多摩町立学校医の推薦について ―― 承認 ――
川辺隆道先生－氷川小学校・氷川中学校
皆川俊一先生－古里小学校・古里中学校
3. 平成 23・24 年度東京都産業医（知事局・水道局・東京消防局）の推薦について
―― 承認 ――
知事局：吉野住雄先生・片平潤一先生・宮下吉弘先生・森本晉先生・川口卓治先生
水道局：森本晉先生
東京消防局：三浦洋靖先生・宮川栄次先生・湯川文朗先生・川辺隆道先生

【3】協議事項

1. 平成 22 年度第 2 回定時総会議題について
平成 23 年 3 月 29 日（火）午後 7 時 50 分～
フォレストイン昭和館 シルバンホール
〈審議事項〉
第 1 号議案 平成 23 年度事業計画案につき承認を求める件
第 2 号議案 平成 22 年度収支補正予算案につき承認を求める件
第 3 号議案 平成 23 年度収支予算案につき承認を求める件
2. 平成 23 年度収支予算書（案）について
公益支出計画を盛り込んだ予算をたてる必要あり
3. 平成 23 年度事業計画案について
公益事業計画も盛り込んだ事業計画をたてる必要あり
※協議事項 2. 3. については旧収支予算書と事業計画が同一でないので
統一見解が出るまで保留案件とする
4. 平成 22 年度収支補正予算書（案）の承認について ―― 承認 ――
5. その他
 - 1) 産業医の推薦について
公益財団法人 東京都農林水産振興財団 青梅庁舎
青梅市新町 6-7-1
職員数 57 名
報酬月額 56,700 円（税込み）
上記の財団に新町クリニックの高木敏先生を推薦する ―― 承認 ――
 - 2) 後援名義の使用について
第 5 回西多摩地区市民公開医療講演会 ―― 承認 ――
（平成 23 年 4 月 24 日に行われる西多摩地区肝友会主催の講演会に後援名義使用）
 - 3) 病院理事の補充選出・選任の告知について（文案）
大島永久病院理事が平成 23 年 3 月 31 日をもって辞任

川上正人青梅市立総合病院副院長を選出 —— 承認 ——

(定款施行規則 50 条及び 58 条により選出)

任期は (前任者の残任期) 平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日

4) 第 2 回定時総会前の講演講師について

公立福生病院の講師、演題の件

学術部 江本理事に依頼

3月定例理事会

平成23年3月8日(火)

西多摩医師会館

[出席者：横田・田坂・鹿児島・野本・川間・蓼沼・江本・川口・山川・宮城・近藤・池谷・足立・松原]

【1】報告事項

1. 各部報告

総務部 2/24 臨時総会報告

3/7 総務会報告 (平成 23 年各部事業計画案、会館建設委員会検討資料他)

3/5 小児用肺炎球菌ワクチン及びヒブワクチンの一時接種中止について配信

3/19 市民健康講座 (糖尿病検討会、羽村市コミセン)

3/24 市民公開講座 (脳卒中検討会、秋川キララホール)

学術部 3/15 第 9 回西多摩臨床報告会開催のお知らせ

平成 23 年 3 月 15 日 午後 7 時 30 分～

公立福生病院 多目的ホール

3/25 パネルディスカッション (公立福生病院多目的ホール)

学校医 3/5 平成 23 年度第 2 回東京都医師会学校医研修会及び地区医師会学校

保健担当理事連絡会 (宮城理事出席)

2. 地区会よりの報告 (各地区理事)

青梅市 3/14 青梅市幹事会にて次期予算、事業計画について検討

(ワクチン接種など)

福生市 法人登記申請、

3/23 次年度ワクチン接種説明会

羽村市 3/15 総会予定

あきる野市 法人登記申請済

瑞穂町

日の出町

3. その他報告

○ 2/26 (土) 西多摩三師会公開講座 (羽村市コミセン)

講演 東京愛育病院 山本一也先生

○ 2/24 都医地域福祉委員会報告 (進藤委員)

1) 「地域ケアにおける医療・介護の再構築」について

2) 主治医研修事業研修会について

【2】報告承認事項

1. 入会会員について ― 承認 ―
2. 平成 23 年度日の出町保育園嘱託医の推薦について ― 承認 ―
進藤 晃先生―大正保育園 湯川文朗先生―大久野保育園
馬場眞澄先生―さくらぎ保育園 神尾重則先生―宝光保育園
3. 平成 23 年度西多摩地区町村結核対策委員会委員の推薦について ― 承認 ―
西多摩医師会代表：田坂哲哉先生・宮城真理先生
地区学校医代表：瀬戸岡俊一郎先生・片平潤一先生
4. 西多摩保健所感染症の診査に関する協議会委員の推薦について ― 承認 ―
大堀洋一先生・田坂哲哉先生・佐野茂男先生
神尾重則先生・松原弘明先生・松原貞一先生
5. 平成 23 年度青梅市立霞台中学校医の変更について ― 承認 ―
櫻井徹志先生を推薦（高野竹先生辞任）
6. 羽村市立保育園園医の推薦について ― 承認 ―
塩沢三朗先生―東保育園 関谷進一郎先生―西保育園
柳田和広先生―しらうめ保育園 山川淳二先生―さくら保育園
7. 都立秋留台高等学校内科医の推薦について ― 承認 ―
小林雅史先生（こばやし内科小児科クリニック）を推薦（今川学先生辞任）

【3】協議事項

1. 平成 23 年度事業計画（案）の承認について ― 承認 ―
平成 23 年 3 月 29 日（火）総会
2. 平成 22 年度収支補正予算書（案）及び平成 23 年度収支予算書（案）の承認について
― 承認 ―
3. 西多摩医師会新会館建設について ― 承認 ―
新会館のビジョン及びタイムスケジュールについて討論
今月開かれる委員会のたたき台の資料として承認を求める
4. 新公益法人制度移行後の支部の名称の取り扱いについて
以上のことについて資料を参考にし検討を行った
5. 東京消防庁救急相談センター救急相談医の登録・派遣について
6. 産業医の推薦について（福生市役所）
西村邦康産業医の辞任によるもの ― 福生市医師会で対応を決定し報告する
7. 感染症危機管理担当理事の設置について ― 承認 ―
緊急時の即応体制整えるもので地域医療部が検討する
8. その他
 - カラープリンターの購入及びレーザープリンターの償却について
（平成 13 年 3 月購入） ― 承認 ―
 - 日本産婦人科専門医（勤務先）の紹介について
勤務先をさがしているので事務局までご連絡頂きたい

会員通知

- 会報
- 宿日直表（青梅・福生・阿伎留）
- 市民健康講座「糖尿病にならないために、糖尿病になってしまったら」（3/19）
- 平成22年度日本医師会「認定産業医」新規申請について（第6回／3月受付分）
- 産業保健実践講習会開催のご案内
- 平成23年度東京都医師会主催「日本医師会生涯教育講座」第1期（4月～7月期）の開催について
- 第24回西多摩心臓病研究会のご案内（4/13）
- 西多摩パネルディスカッション2011「めまいの外来診療」抄録（3/25）
- 平成23年度診療報酬請求書提出日一覧表
- 国民健康保険組合の保険証が更新されます（ポスター）
- 警視庁ポスター
- 第28回日本医学会総会資料
- 学術講演会（3/4、3/17）
- 学術アンケート（3/25パネルディスカッション）
- 会館建設準備委員会開催のお知らせ
- 第9回西多摩医師会臨床報告会のお知らせ（3/15）
- 平成22年度西多摩医師会臨時総会報告
- 平成22年度第2回定時総会開催について
- 小児用肺炎球菌ワクチン及びヒブワクチンの一時接種中止について
- 冷所保存のワクチン等の停電対策について
- 市民健康講座延期のお知らせ
- 東北地方太平洋沖（東日本巨大地震）及び長野県北部の地震による被災者に係る一部負担金等について
- 福島原発事故による避難者の一部負担金等について
- パネルディスカッション2011延期のお知らせ
- 平成22年度西多摩医師会定時総会会場・時間変更について
- チラーゼンS錠、チラーゼンS散、チラーゼン末（レボチロキシンナトリウム）の供給状況並びに長期処方の方の自粛の考慮等について
- 東北地方太平洋沖地震義援金のお願い

//// 医師会の動き ////

医療機関数	213	病院	30
		医院・診療所	183
会員数	533	A会員	203
		B会員	330

会議

3月4日	在宅難病訪問診療（青梅）
7日	総務会
8日	定例理事会
10日	西多摩地域糖尿病医療連携検討会
11日	在宅難病訪問診療（青梅）
24日	会報編集委員会
29日	西多摩医師会定時総会
30日	西多摩地域脳卒中医療連携検討会

講演会・その他

3月4日	学術講演会
	演題：脳卒中治療ガイドライン 2009による脳卒中予防戦略
	講師：富山大学病院 神経内科 教授 田中耕太郎 先生
8日	保険指導整備委員会
9日	法律相談

役員出張

3月24日	東京都医師会地区医師会長連絡協議会
24日	東京都医師会役員選挙事務所開き

【退会会員】

氏名 松葉 泰
勤務先 (医社) 慶成会 青梅慶友病院

氏名 太組 由貴
勤務先 (医社) 健之会
つじ内科脳神経外科クリニック

【新規開業】

氏名 小林 雅史
施設名 こばやし内科小児科クリニック
所在地 あきる野市草花1439-9
出身校 富山医科薬科大学 平成8年卒

お知らせ

事務局より お知らせ

平成23年5月(4月診療分)の

保険請求書類提出

5月9日(月)

— 正午迄です —

法律相談

西多摩医師会顧問弁護士 鈴木禧八先生による法律相談を
毎月第2水曜日午後2時より実施しておりますのでお気軽に
ご相談ください。

- ◎相談日 4月は13日(水)
5月は11日(水)の予定です。
- ◎場所 西多摩医師会館和室
- ◎内容 医療・土地・金銭貸借・親族・相続問題等民事・
刑事に関するどのようなものでも結構です。
- ◎相談料 無料(但し相談を超える場合は別途)
- ◎申込方法 事前に医師会事務局迄お申込み願います。
(注)先生の都合で相談日を変更することもあります。

訃報

あきる野市留原396
社会福祉法人紫水会 紫水園診療所

管理者 今川 学先生

昭和37年3月30日生 享年48才



平成23年3月20日ご逝去されました。謹んで哀悼の意を表しご冥福をお祈りいたします。

表紙のことば



『主役はどちら』

会報の表紙の写真は、1月は富士山、3月は梅・桃、4月は桜と決まっています。

善福寺の池の端では、桜はもちろん見事ですが、柳の芽吹いた新緑に目を奪われました。

森本 晋

あ と が き



M9.0の東北地方太平洋沖大地震、大津波災害、福島原発の水素爆発。被害を被った数万人の方々に、心からお悔やみを申し上げます。

東北地方を襲ったM9.0の大地震、10m以上の大津波による集落の崩壊の映像は、日本全体に想像を絶する恐怖を与えた。

被害が少なかった私たちの生活にも地震の影響が表れている。

3月11日、大地震の夜、千葉に住む娘によく電話がつながった。地震の被害もなく孫たちも無事だと言うことで一安心したが、マンションから炎上している石油タンクの火が見えて黒い煙が立っていると聞かされると少し心配になってきた。新宿の会社に勤めている二男からは、深夜に電車が復旧してやっと帰宅の途についたとメールがあった。

数日後、娘から町の被害報告。ロッテ・スタジアム周辺の液状化と海浜幕張駅の周りの地盤沈下。下水が一時使えなかったが、復旧して通常の生活に戻った。炎上した石油会社からの有害な物質が空気中に漂っているので注意するようにと、知人から送られた情報を伝えると、それはチェーン・メールと一笑された。娘婿は連休を使って実家の福島へ水とレトルト食品の運搬に出かけた。

日の出町はガソリン不足。妻は3時間かけて給油してきた車をなかなか貸してくれない。職員からは自転車を使うように助言され、4km先の福祉施設まで自転車で移動した。休日にはガソリンスタンドに出かけ、朝から4時間の長い列に並んで給油した。

震災直後から始まった計画停電で、診療時間の変更と休診が増えた。夕方の停電時では、ラジオを聴きながら、ランタンを灯しての食事だったが、灯油ストーブなどの暖をとる器具が無く、災害時の準備不足を痛感した。

大きな被害を被っていない地域でも、ガソリン、カップラーメン、米、灯油ストーブ、電灯、電池などが店舗から売り切れた。さらに野菜・原乳、水道から基準値以上の放射能が検出され、不安は消えることなく新たな心配が次々と襲ってくる。

被災を受けた地域、がんばれニッポン、一人ひとりが元気を出す時期に来ている。

馬場眞澄

社団法人 西多摩医師会

平成23年4月1日発行

会長 横田卓史 〒198-0044 東京都青梅市西分町3-103 TEL 0428(23) 2171・FAX 0428(24) 1615

会報編集委員会 近藤 之暢

鹿児島武志 江本 浩 鈴木 寿和 馬場 眞澄 菊池 孝
桑子 行正 土田 大介 奥村 充 渡邊 哲哉

印刷所 マスダ印刷 TEL 0428(22) 3047・FAX 0428(22) 9993

診療所向け電子カルテシステム



BMLには誇りと実績があります。

★日本全国のお客様をサポートしてます。

★全診療科に対応してます。

★多彩な入力ツールを用意してます

★多くの連動システムに対応してます

★オンライン請求に向けたレセ電算化に
全国で対応可能です。



株式会社 **ビー・エム・エル**

埼玉第三営業所

TEL:049-232-0111

「西多摩医師会」会員の皆さまへ

東京厚生信用組は
福祉・医薬・医療・環境
衛生の関連事業者の
発展に寄与してまいります。

東京厚生信用組は、
医療関連事業を営む皆様を
対象として、1953年に設立された
協同組織の金融機関でございます。

既に各地区医師会で多数の会員の皆様に
ご利用頂いております。これからも、
会員の皆様に密着した金融機関として
努力して参ります。



安心と信頼の
パートナー

貴重なお時間を有効にお使い
いただくため、訪問による相談
業務を得意としております。

お問い合わせは：医師会様担当 落合まで
●本部〈フリーダイヤル〉

0120-294805

ご融資

- クリニック運営資金
- 学術研究資金
- ご子息の教育資金
- 記念パーティー等の資金
- お車購入資金
- その他どんな事柄でも
ご相談くださいませ。

都医ニュースでお馴染みの「東京厚生信用組」です。



「人間・福祉・環境」にやさしい

東京厚生信用組

本店 新宿区西新宿6-2-18/浅草支店 台東区駒形1-1-12
小平支店 小平市美園町1-31-1/青梅支店 青梅市河辺町10-8-3